

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670100627
法人名	社会福祉法人 敬寿会
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園
訪問調査日	平成 20年 8月 28日
評価確定日	平成 20年 11月 6日
評価機関名	株式会社 福祉工房

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	670100627		
法人名	社会福祉法人 敬寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園		
所在地 (電話番号)	山形県山形市大字妙見寺500-1 (電話) 023-634-2020		
評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年11月6日

## 【情報提供票より】(平成20年 6月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 11年 7月 1日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	24 人	常勤	24人, 非常勤 人, 常勤換算 24人

## (2)建物概要

建物形態	<del>併設</del> 単独	新築 3/改築 1
建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建・3階建	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	36 名	男性	3 名	女性	33 名
要介護1	16 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.36 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	篠田総合病院・市立病院済生館
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>家庭生活の延長との考えのもと、日中はドライブや買い物に行く機会を増やしており入浴は夜間としている。職員は利用者一人ひとりの能力を見極め、それぞれに合った役割を担ってもらい、又適切に声がけし、利用者も生き生きとした表情をしており、穏やかな生活を送っているようにも観察された。地域との関係性も良好に保たれており、事業所は地域の一員として活動している。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善すべき事項はありませんでした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価への取り組みの結果は職員、家族がいつでも目を通せる場所に掲げており、改善点は優先順位を付けて改善策を話し合い取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催、その時々課題により開催方法を工夫している。利用者、家族の参加でより事業所の理解につなげることが出来ている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付窓口を外部に設置しており、詳細を玄関横に明示している。面会時、家族会においても意見、不満、苦情を聞くようにしている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元との交流には努力をしており、地区の夏祭りには利用者も参加している。子供神輿が訪問し園内を回り、お神酒をいただいたり、お捻りを渡したり子供たちとの交流がある。又事業所を知ってもらう為、食事会等を催し、地元の民生委員たちに参加をしてもらっている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念、事業所としての理念が掲げられており、いずれも地域で利用者がその人らしく生活できることを目指した理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで職員全体と理念の確認をしており、職員もそれぞれの理念の根拠に意識しケアに結びつけるようになって来ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元との交流では、地区の夏祭りには利用者も参加している。子供神輿が訪問し園内を回り、お神酒をいただいたり、お捨りを渡したり子供達との交流がある。又事業所を知ってもらう為、食事会等を催し、地元の民生委員たちに参加をしてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価への取り組みの結果は職員、家族がいつでも目を通せる場所に掲げており、改善点は優先順位を付けて改善策を話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、その時々課題により開催方法を工夫している。利用者、家族の参加でより事業所の理解につなげることが出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の行事に参加していただけるよう働きかけを行っており、市の担当者とは相談できる関係にある。法人として地域包括支援センターがあり、窓口になって取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には日ごろの生活ぶりやケース記録、出納伝票、アルバム等を見ながら話し合っている。通院後は家族と連絡、報告を行い面会時に確認をしている。又3ヶ月に1回瓦版を発行し、ホームでの生活の様子を伝えている。又家族会を開催して希望、要望を聞いている。参加できない家族には近況を電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を外部に設置しており、詳細を玄関横に明示している。面会時、家族会においても意見、不満、苦情を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族側からは交代が多いというイメージはもたれているが、今回も法人内の2施設の開設の為、職員の大幅な異動があったが、十分な引継ぎが行われダメージは見られなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修とサービス向上のための研修は良く行われている。管理者も自ら各ユニットに入り、スキルアップを図っている。今後は事業所内部での研修にも取り組む予定。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会の交換研修に参加しサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、洗濯、裁縫等における生活の技や工夫等、利用者の知恵を引き出すような働きかけを積極的に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、意向等を把握する為センター方式を利用している。又、家族の意見も聞き、コミュニケーションの困難な利用者からは表情や様子で情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ADL面だけでなく利用者のこれまでの生活を理解し、3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。又、家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、その際、本人、家族の意見を積極的に取り、状態が変化した時には家族へは迅速に報告して、現状に即した計画を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	もともとのかかりつけ医を優先するといった考えのもと、 および家族会からの要望もあり、職員が通院同行して いる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合や終末期の対応に関して、家族との話 し合いは早い段階から行われており、ターミナル報告 書も作成され、実績もあり、ケース記録にも記録されて いる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	プライバシーの確保は永遠のテーマであると捉え、月1 回の会議や全体朝礼等でプライバシーの保護、虐待、 利用者の尊厳等の話をしている。今後も職員のさりげ ないフォローや工夫、対応策に関し話し合い、統一さ れたケアが行える取り組みを予定している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の要望については出来る範囲で対応 している。ユニット単位の際は「行かない」という利用者 に対しては職員も残って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力にあわせて、食事の準備や後片付けを分担している。食事中は和やかに利用者は会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭の延長との考えから、入浴は基本的には毎日夜間帯PM7:30～入浴している。他の時間に希望があれば可能な限り対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から特技や好きなことを見出し、役割や行事に参加してもらっている。「ありがとう」の声がけがやる気とほりのある役割につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望をいれ、ドライブ、買い物等は多く取り入れられている。通院の際には利用者の以前の家に寄りたり、好みのものの買い物をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関の施錠をしていない。夜間及び入浴時には防犯の為施錠をしている。利用者が外出することはあるが、理由については把握するよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体として防災訓練を行っている。又、夜間を想定した避難訓練も実施している。運営推進委員会でも課題にし地域の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600キロカロリーに合わせ、食事の残量をチェック表に記入。利用者の好み、咀嚼、嚥下の状態に応じて食事内容の変更、カロリーの過不足、栄養の偏り水分の不足が起こらないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓の間接照明、食事中はテレビは消し、居室と共用空間には風が通り居心地よく過ごせるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は各自好みののれんを居室の入口に下げており、部屋にはなじみのものを家庭より持ってきていて、それぞれこだわりの生活を送れる工夫がなされている。		